

売上成長前年比 85%。配当は一株 0.25 USD へ増配。流動資産増加などにより、市場の反応はいまだに慎重。ハイパースケーラー需要根強い。

ナスダック | 半導体素子 | 業績フォロー

BLOOMBERG NVDA US | REUTERS NVDA.OQ

5月20日発表の1Q27の四半期業績は、売上高が前年同期比 85%増の 816 億 USD、営業利益が同 147%増の 535 億 USD、当期純利益は同 211%増の増収増益。四半期の配当額を 0.25USD へ増配することも発表された。YoY の四半期売上高成長率は 3Q25 の前年同期比 93.6%に次いで高い成長となった。今期より適用されるエンド市場別売上区分では、データセンター売上におけるハイパースケーラー向け売上が同 115.2%増の 379 億 USD となった。AWS やアルファベットなどのハイパースケーラーは自社カスタムチップの優位性を説くが、依然として NVIDIA GPU の購入を増やしていることが推察できる。

競合に比べて過去 12 か月間の平均リターンは最も低く(表 2)、市場は同社の独占的地位に懐疑的。決算発表翌日の値動きは鈍く、終値ベースでは 1.9%の下落となった。在庫の拡大や戦略投資による戦略保有株の積み上げからくる対資産ベースでの効率性低下懸念、カスタムチップや CPU への技術論点の変遷など、NVIDIA 一強に対する懐疑論は依然として根強い。

在庫滞留日数は 100 日を越える状況は続いているが(表.5)、税引後みなし営業利益とフリーキャッシュフローは乖離しておらず(表.6)、高い利益率や売上成長といった損益計算書上のパフォーマンスはキャッシュフローに裏付けられていると言える。

世界初のエージェント AI 専用 CPU として開発された Vera CPU は、出荷を開始。Vera CPU は、フラッグシップデータセンター製品 Vera Rubin を構成する。主な最初期の出荷先は、Anthropic、OpenAI、Oracle、SpaceX である。2028 年の製品ロードマップでは、傘下の Groq が開発した LPU (言語処理ユニット) を搭載したデータセンター製品 Feynman が発表されている。LPU には 1.6nm ノードが採用見込みであり、Intel ファウンドリでの製造を予定。米国への半導体製造回帰と製造技術分散が今後の同社のテーマだろう。

四半期業績推移	1Q26	4Q26	1Q27	ΔY/Y	2Q27
売上高 (百万USD)	44.1	68.1	81.6	85.2%	90.99
売上総利益 (百万USD)	26.7	51.1	61.2	129.3%	--
%粗利/売上高	60.5	75.0	74.9	+14.4pts	--
営業利益 (百万USD)	21.6	44.3	53.5	147.4%	--
%営利/売上高	49.1	65.0	65.6	+16.48pts	--
当期利益 (百万USD)	18.8	43.0	58.3	210.6%	--
希薄化後EPS (USD)	0.76	1.76	2.39	214.5%	2.06
四半期配当 (USD)	0.010	0.010	0.010	0.00%	0.250*

通期実績推移 (1月期)	FY2024	FY2025	FY2026	CAGR	FY2027(F)
売上高 (百万USD)	60.9	130.5	215.9	88.3%	383
当期純利益 (百万USD)	29.8	72.9	120.1	100.9%	220
希薄化後EPS (USD)	1.19	2.94	4.90	102.7%	9.17
通期配当 (USD)	0.016	0.034	0.040	58.1%	N/A*

引用：企業公表値、ブルームバーグ (Fはブルームバーグ予想値)、CAGRは3か年の年率平均複利成長率

*2Q27の四半期配当は企業発表値

*2027年通期配当予想は直近の企業発表値の0.25USDを反映したコンセンサス値でないため記載せず。

フィリップ証券株式会社・リサーチ部

三角友幸

TEL : +81 3 3666 0707 (直通)

E-mail : tomoyuki.misumi@phillip.co.jp

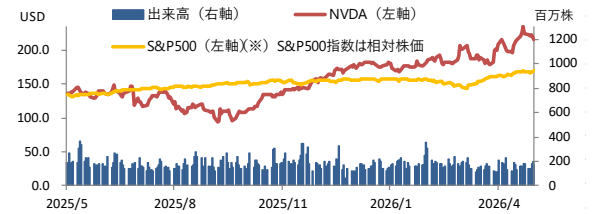
予想配当 (USD)	0.047
株価 (USD)	215.33
実績 PER (倍)	37.70
予想 PER (倍)	24.49
時価総額 (10億 USD)	5,210.99
企業価値 (10億 USD)	5,106.13
3か月平均売買代金 (百万USD)	32,817.7

*配当予想と予想PERはブルームバーグ、各数値は5/22終値による

*実績PERは過去12ヶ月累積EPSに基づく

会社概要

1993年設立の半導体ベンダー。現CEOはジェンソン・ファン氏。画像処理用途であるGPU(Graphic Processing Unit)が主力製品。人工知能分野における大規模学習および推論用途のフルスタック型データセンター製品 (GPU、CPU、ネットワーク製品) を提供する。AIライブラリであるCUDA(ソフトウェア)は、人工知能(AI)やハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)開発において独占的な地位を築く



(出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

1. 株価リターンデータ*	NVDA	S&P500	β推計値	α(アルファ)
市場ベータ (β)	2.10	1.00	--	--
%日次平均リターン (r)	0.19	0.09	0.37	(0.19)
%日次標準偏差 (σ : シグマ)	2.12	0.77	4.43	2.32
リターン(r)/リスク(σ)比率	0.09	0.11	0.08	(0.08)
r + 1σ 超過利得・観測日数	31	28	--	--
r - 1σ 超過損失・観測日数	37	29	--	--

2. 競合・類似企業比較(市場)	AMD	AVGO	ARM	NVDA
株価 (26/5/22: USD)	467.51	414.57	306.51	215.33
時価総額 (26/5/22: 10億USD)	762	1,961	326	5,211
予想PER	24.45	64.63	37.21	139.26
%年率平均リターン (r)	135.67	58.25	79.70	25.58
%年率標準偏差 (σ : シグマ)	62.53	41.90	60.86	31.72
NVDAのリターンとの相関(≤1.0)	0.05	(0.01)	(0.06)	1.00

*表1.と2.の平均リターン・標準偏差はブルームバーグデータ (25/5/19~26/5/22) を用いて算出。

*表1.と2.の各項の定義および留意については次頁参照。

業績詳細 (単位:10億USD)

3. 競合・類似企業比較(業績)	AMD	AVGO	ARM	NVDA
直近決算発表日	5月5日	3月4日	5月6日	5月20日
直近決算区分	1Q26	1Q26	4Q26	1Q27
TTM・売上高 (10億USD)	37.5	68.3	4.9	253.5
売上高CAGR (3か年)	18.0%	20.7%	15.0%	47.0%
%粗利/売上高 (3か年平均)	49.04	66.52	96.59	73.18
%営利/売上高 (3か年平均)	7.94	36.52	14.15	60.63

*TTM(trailing twelve months)は直近の四半期決算を基準とした過去12ヶ月の業績の集計値。

*売上高CAGRと平均利益率は、各社直近決算日とその前年同期、前々年同期を起算日とした各年TTM業績にもとづく。(例：NVDAの場合、1Q27、1Q26、1Q25を基準としたTTM業績を参照)

4. エンド市場別売上	1Q26	4Q26	1Q27	ΔY/Y
ハイパースケーラー	17.6	33.8	37.9	115.2%
AIクラウド、産業 & 企業向け	21.5	28.5	37.4	73.7%
エッジコンピューティング	5.0	6.0	6.4	29%

*ハイパースケーラーおよびAIクラウド、産業 & 企業向けは過去業績のデータセンター製品売上相当。

5. 売上回転率・現金転換日数	2Q26	3Q26	4Q26	1Q27
DOS (売上債権回収日数)	48.1	48.3	47.5	43.7
DOH (在庫滞留日数)	91.8	103.2	108.8	103.8
DOP (仕入債務支払日数)	57.2	52.5	48.7	50.4
CCC (現金転換日数)	82.6	99.0	107.6	97.1

*回転日数は四半期日数 (90日) を適用して計算。

*回転日数の分母となる回転率は、各期の売上・費用を資産・負債の2期平均残高で除算して算出。

6. 利益とキャッシュフロー比率	2Q26	3Q26	4Q26	1Q27
NOPAT : 税後みなし営業利益	24.1	30.3	37.8	44.7
FCFF (企業フリーキャッシュフロー)	13.5	22.1	35.0	48.6
純営業資産の期中平均残高	21.8	33.9	39.8	38.2
FCFF/アクルアル比率	0.48	0.24	0.07	(0.10)

引用元：表1~6は企業公表値およびブルームバーグデータにもとづく。

青字・水色字はアナリストによる集計・計算による

*純営業資産は、資産と負債より金融項目をそれぞれ除した営業資産と営業負債の差額。

*企業フリーキャッシュフローは税後利子費用を足した企業帰属フリー・キャッシュフロー。

*FCFF/アクルアル比率 = (NOPAT-FCFF) / 純営業資産の期中平均。

<レポート右図表における『株価リターンデータ』の項目における用語説明>

レポート右図における『株価リターンデータ』の各項目を以下のように定義し、情報端末より引用、もしくは情報端末の市場データを用いて算出しています。

市場ベータ (β)	ブルームバーグ端末より参照した市場ベータ値 (未修正*)。当該株式と指数との連動性を示しており、当該株式を保有する投資家が取っている市場リスクの多寡を示す。 * 未修正とは、ブルームバーグ調整ベータと異なり、時価総額による調整を行っていないことを指す。
日次平均リターン (r)	観測期間 (過去 52 週) における日次リターン (前日終値に対する当日終値の上昇・下落率) の平均値。
日次標準偏差 (σ: シグマ)	観測期間 (過去 52 週) における日次リターンの標準偏差であり、投資家が取っている価格リスクを示す。
r + 1σ利得超過・観測日数	過去 52 週 (営業日数 250 日前後を想定) における実測の日次リターン (利得) が、平均リターン(r)と標準偏差(σ)×1の和を超過した日数。
r - 1σ損失超過・観測日数	過去 52 週 (営業日数 250 日前後を想定) における実測の日次リターン (損失) が、平均リターン(r)と標準偏差(σ)×1の差を超過した日数。
β推計値	S&P500 をベンチマーク指数とし、ベンチマークの日次リターンに当該株式の市場ベータを乗じて導出した、当該株式の日次リターンの推計値の過去 52 週平均値、および推計日次リターンの過去 52 週の標準偏差値。
α (アルファ)	β推計された日次リターンと実測日次リターンとの差分。投資家が当該個別株に投資することによって得られた市場リスクに対する理論上の超過利得 (損失) を示す。

* 当該株式のリターン、S&P500 (指数) リターン、β (ベータ) と α (アルファ) には以下の関係があると想定する。

$$R_{\text{株式}} = \alpha + \beta \times R_{\text{指数}}$$

$R_{\text{株式}}$: 当該株式の価格リターン

$R_{\text{指数}}$: ベンチマークとなる指数の価格リターン

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者 : リサーチ部 三角友幸

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

< 日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 (平 14.1.25)」に基づく表示 >

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。